

お客様各位

---

## カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

---

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

## ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。  
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット  
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）  
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

## R8C/35C グループ

### PCターミナルソフトとUART通信（高速OCO 36.864MHz使用）

#### 1. 要約

この資料はPCターミナルソフトとUART通信（高速OCO 36.864MHz使用）の設定方法、及び応用例について説明しています。

#### 2. はじめに

この資料で説明する応用例は次のマイコンでの利用に適用されます。

- マイコン : R8C/35C グループ

R8C/35C グループと同様のSFR（周辺機能レジスタ）を持つ他のR8C/Tinyシリーズでも本プログラムを使用することができます。ただし、一部の機能を機能追加等で変更している場合がありますのでマニュアルで確認してください。このアプリケーションノート使用に際しては十分な評価を行ってください。

### 3. 応用例の説明

#### 3.1 プログラムの概要

R8C/35C グループのクロック非同期形シリアルI/O(UART)モードにより、PCのターミナルソフトとの送受信処理を行います。

本プログラムの仕様は下記の通りです。

- (1) キーボードから“3桁までの数字”、“+ (0x2B)”、“3桁までの数字”、“リターンキー (0x0D)”を入力する。  
例：123+123（リターンキー）
- (2) R8C/35C グループ側は(1)で入力されたデータの足し算を行い、“LF/NL (0x0A)”、“= (0x3D)”、“(計算結果)”、“CR (0x0D)”、“LF/NL (0x0A)”をターミナルソフトに送信する。  
例：(0x0A)=246 (0x0D, 0x0A)

表 3.1にUART通信の設定内容、図 3.1にビットレート設定値を示します。

表 3.1 UART通信の設定内容

機能	設定内容
仕様端子	TXD0、RXD0
転送データ長	8ビット
ストップビット	1ストップビット
パリティ	パリティ禁止
BRGカウントソース	f1
データ出力選択ビット	TXD0端子はCMOS出力
転送フォーマット	LSBファースト
ビットレート	115200bps

$$\begin{array}{c}
 \begin{array}{ccc}
 \text{システムクロック} & & \text{FRA2レジスタ} & & \text{CLK0, CLK1ビット} \\
 \boxed{36.864\text{MHz}} & \times & \boxed{f2} & \times & \boxed{f1}
 \end{array} \\
 \hline
 = 115200 \text{ (bps)} \\
 \\
 16 \times \left( \begin{array}{c} \text{U0BRGLレジスタ} \\ \boxed{9} \\ \text{("0x09")} \end{array} + 1 \right)
 \end{array}$$

図 3.1 ビットレート設定値

なお、本サンプルプログラムでは、SFRのビット配置の都合上、使用しない機能のビットを操作している場合があります。これらの設定値はユーザシステムでの使用状況に合わせて設定してください。

### 3.2 仕様端子と使用メモリ

#### 3.2.1 使用端子

表 3.2 使用端子と機能

端子名	入出力	機能
P1_4(/TXD0/TRCCLK)	出力	シリアルデータ出力
P1_5(/INT1/RXD0/TRAI0)	入力	シリアルデータ入力

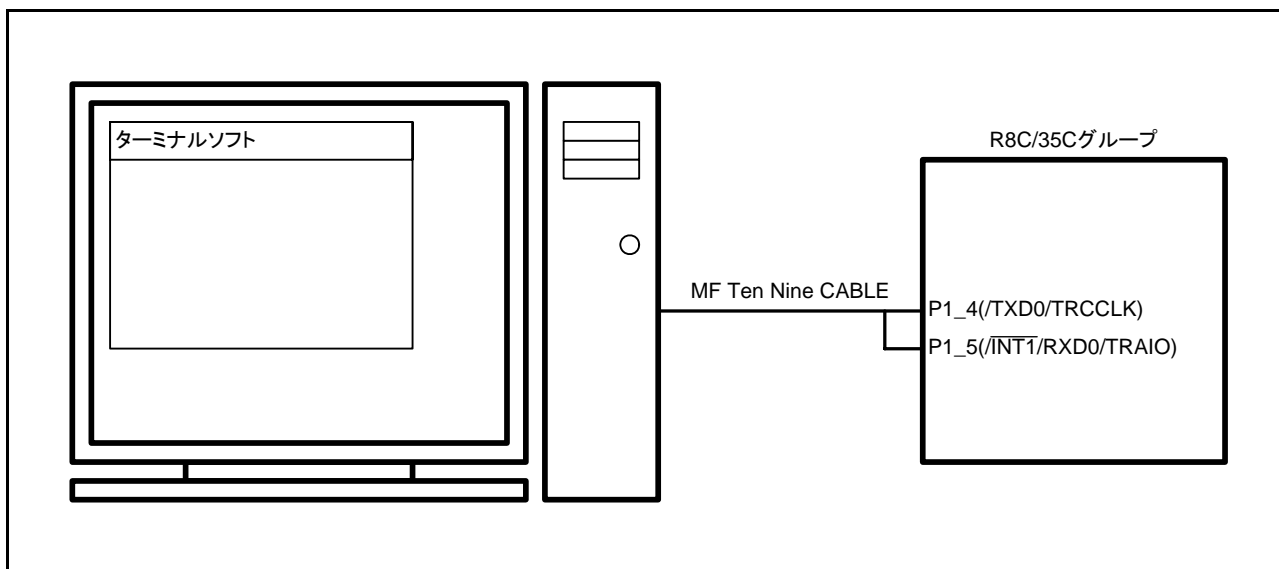


図 3.2 使用端子

#### 3.2.2 使用メモリ

表 3.3 使用メモリ

使用メモリ	サイズ	備考
ROM	823バイト	rjj05b1531_src.cモジュール内
RAM	15バイト	rjj05b1531_src.cモジュール内
最大使用ユーザスタック	16バイト	main関数 : 3バイト mcu_init関数 : 6バイト uart_init関数 : 3バイト pc_communication関数 : 3バイト input_left_part関数 : 7バイト input_right_part関数 : 7バイト input_data_calc_echo関数 : 3バイト calculation_and_transmit関数 : 3バイト
最大使用割り込みスタック	0バイト	未使用

使用メモリサイズはCコンパイラのバージョンやコンパイルオプションによって異なります。上記は次の条件の場合です。

Cコンパイラ : M16C/60,30,20,10,Tiny,R8C/Tiny Series Compiler V.5.45 Release 00  
コンパイルオプション : -c -finfo -dir "\$(CONFIGDIR)" -R8C

#### 4. 設定方法について

「3. 応用例の説明」を実現するための初期設定手順と設定値を示します。各レジスタの詳細は「R8C/35C グループハードウェアマニュアル」を参照願います。

##### 4.1 システムクロックの設定

- (1) CM0、CM1、CM3、OCD、FRA0、FRA1、FRA2、FRA3 レジスタへの書き込みを許可します。

プロテクトレジスタ (PRCR)

アドレス 000Ah 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	PRC3	PRC2	PRC1	PRC0
設定値	—	—	—	—	—	—	—	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PRC0	プロテクトビット0	CM0、CM1、CM3、OCD、FRA0、FRA1、FRA2、FRA3 レジスタへの書き込み許可 1：書き込み許可	R/W

- (2) 高速オンチップオシレータの周波数を36.864MHzにするためにFRA4レジスタの内容をFRA1レジスタに転送します。

高速オンチップオシレータ制御レジスタ 1(FRA1)

アドレス 0024h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	—	—	—	—
設定値	FRA4 レジスタの出荷時の値							

ビット	機能	R/W
b7~b0	ビット0~7で高速オンチップオシレータの周波数を調整できます。	R/W

FRA1 レジスタは、PRCR レジスタの PRC0 ビットを“1” (書き込み許可) にした後、書き換えてください。

- (3) 高速オンチップオシレータの周波数を36.864MHzにするためにFRA5レジスタの内容をFRA3レジスタに転送します。

高速オンチップオシレータ制御レジスタ 3 (FRA3)

アドレス 002Fh 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	—	—	—	—
設定値	FRA5 レジスタの出荷時の値							

ビット	機能	R/W
b7~b0	ビット0~7で高速オンチップオシレータの周波数を調整できます。	R/W

FRA3 レジスタは、PRCR レジスタの PRC0 ビットを“1” (書き込み許可) にした後、書き換えてください。

(4) 高速オンチップオシレータの分周比を設定します。

高速オンチップオシレータ制御レジスタ 2 (FRA2)

アドレス 0025h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	—	FRA22	FRA21	FRA20
設定値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FRA20	高速オンチップオシレータ周波数切替ビット	分周比選択 高速オンチップオシレータクロック分周比を選択します。 b2 b1 b0 000 : 2分周モード	R/W
b1	FRA21			R/W
b2	FRA22			R/W
b3	—	予約ビット	“0” にしてください	R/W
b4	—			
b5	—			
b6	—			
b7	—			

FRA2 レジスタは、PRCR レジスタの PRC0 ビットを “1” (書き込み許可) にした後、書き換えてください。

(5) 高速オンチップオシレータを発振させます。

高速オンチップオシレータ制御レジスタ 0 (FRA0)

アドレス 0023h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	FRA03	—	FRA01	FRA00
設定値	—	—	—	—	—	—	—	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FRA00	高速オンチップオシレータ許可ビット	1 : 高速オンチップオシレータ発振	R/W

FRA0 レジスタは、PRCR レジスタの PRC0 ビットを “1” (書き込み許可) にした後、書き換えてください。

(6) 発振安定待ちを行います。

(7) 高速オンチップオシレータを選択します。

高速オンチップオシレータ制御レジスタ 0 (FRA0)

アドレス 0023h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	FRA03	—	FRA01	FRA00
設定値	—	—	—	—	—	—	1	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1	FRA01	高速オンチップオシレータ選択ビット (注1)	1: 高速オンチップオシレータ選択	R/W

注1. FRA01ビットは次の条件のとき変更してください。

- FRA00=1(高速オンチップオシレータ発振)
- CM1レジスタのCM14=0(低速オンチップオシレータ発振)
- FRA2レジスタのFRA22~FRA20ビットが  
VCC=3.0V~5.5Vの場合は全分周モード設定可能“000b”~“111b”  
VCC=2.7V~5.5Vの場合は4分周以上の分周比“010b”~“111b”(4分周モード以上)  
VCC=2.2V~5.5Vの場合は8分周以上の分周比“110b”~“111b”(8分周モード以上)

FRA0レジスタは、PRCRレジスタのPRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後、書き換えてください。

(8) システムクロック分周比選択ビット1を設定します。

システムクロック制御レジスタ 1(CM1)

アドレス 0007h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	CM17	CM16	—	CM14	CM13	CM12	CM11	CM10
設定値	0	0	—	—	—	—	—	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6	CM16	システムクロック分周比選択ビット1(注1)	b7 b6 00: 分周なしモード	R/W
b7	CM17			R/W

注1. CM06ビットが“0”(CM16、CM17ビット有効)の場合、CM16~CM17ビットは有効となります。

CM1レジスタはPRCRレジスタのPRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。



(9) システムクロック分周比選択ビット0を設定します。

システムクロック制御レジスタ0(CM0)

アドレス 0006h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	CM07	CM06	CM05	CM04	CM03	CM02	CM01	—
設定値	—	0	—	—	—	—	—	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6	CM06	システムクロック分周比選択ビット0(注1)	0 : CM1レジスタのCM16、CM17ビット有効	R/W

注1. ストップモードへの移行時、CM06ビットは“1”(8分周モード)になります。

CM0レジスタは、PRCRレジスタのPRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

(10) CM0、CM1、CM3、OCD、FRA0、FRA1、FRA2、FRA3レジスタへの書き込みを禁止します。

プロテクトレジスタ(PRCR)

アドレス 000Ah 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	PRC3	PRC2	PRC1	PRC0
設定値	—	—	—	—	—	—	—	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PRC0	プロテクトビット0	CM0、CM1、CM3、OCD、FRA0、FRA1、FRA2、FRA3レジスタへの書き込み許可 0 : 書き込み禁止	R/W

## 4.2 クロック非同期形シリアルI/O（UART）モードの設定

### 4.2.1 初期設定

- (1) P1\_4(TXD0)、P1\_5(RXD0)を入力ポートに設定します。

ポートP1方向レジスタ(PD1)

アドレス 00E3h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	PD1_7	PD1_6	PD1_5	PD1_4	PD1_3	PD1_2	PD1_1	PD1_0
設定値	—	—	0	0	—	—	—	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4	PD1_4	ポートP1_4方向ビット	0：入力モード(入力ポートとして機能)	R/W
b5	PD1_5	ポートP1_5方向ビット		R/W

PD1 レジスタはI/Oポートを入力に使用するか、出力に使用するか選択するためのレジスタです。PD1 レジスタの各ビットは、ポート1本ずつに対応しています。

- (2) UART0端子選択レジスタを設定します。

UART0端子選択レジスタ(U0SR)

アドレス 0188h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	CLK0SELO	—	RXD0SELO	—	TXD0SELO
設定値	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TXD0SELO	TXD0端子選択ビット	1：P1_4に割り当てる	R/W
b1	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は“0”。		—
b2	RXD0SELO	RXD0端子選択ビット	1：P1_5に割り当てる	R/W
b3	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は“0”。		—
b4	CLK0SELO	CLK0端子選択ビット	0：CLK0端子は使用しない。	R/W
b5	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は“0”。		—
b6	—			
b7	—			

U0SR レジスタは、UART0の入出力をどの端子に割り当てるかを選択するレジスタです。UART0の入出力端子を使用する場合は、U0SRレジスタを設定してください。

UART0の関連レジスタを設定する前に、U0SRレジスタを設定してください。また、UART0の動作中はU0SRレジスタの設定値を変更しないでください。

(3) UART0送信割り込み制御レジスタを設定します (割り込み禁止設定)。

UART0送信割り込み制御レジスタ (S0TIC)

アドレス 0051h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	IR	ILVL2	ILVL1	ILVL0
設定値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : レベル0 (割り込み禁止)	R/W
b1	ILVL1			R/W
b2	ILVL2			R/W
b3	IR	割り込み要求ビット	0 : 割り込み要求なし	R/W (注1)
b4	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は不定。		—
b5	—			
b6	—			
b7	—			

注1. IRビットは“0”のみ書けます (“1”を書かないでください)。

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。

(4) UART0受信割り込み制御レジスタを設定します (割り込み禁止設定)。

UART0受信割り込み制御レジスタ (S0RIC)

アドレス 0052h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	IR	ILVL2	ILVL1	ILVL0
設定値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : レベル0 (割り込み禁止)	R/W
b1	ILVL1			R/W
b2	ILVL2			R/W
b3	IR	割り込み要求ビット	0 : 割り込み要求なし	R/W (注1)
b4	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は不定。		—
b5	—			
b6	—			
b7	—			

注1. IRビットは“0”のみ書けます (“1”を書かないでください)。

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。

(5) U0C1レジスタのTEビットを“0”に設定します。

UART0送受信制御レジスタ1 (U0C1)

アドレス 00A5h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	U0RRM	U0IRS	RI	RE	TI	TE
設定値	—	—	—	—	—	—	—	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TE	送信許可ビット	0 : 送信禁止	R/W

(6) U0C1レジスタのREビットを“0”に設定します。

UART0送受信制御レジスタ1 (U0C1)

アドレス 00A5h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	U0RRM	U0IRS	RI	RE	TI	TE
設定値	—	—	—	—	—	0	—	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2	RE	受信許可ビット	0 : 受信禁止	R/W

(7) UART0送受信モードレジスタを設定します。

UART0送受信モードレジスタ (U0MR)

アドレス 00A0h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	PRYE	PRY	STPS	CKDIR	SMD2	SMD1	SMD0
設定値	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SMD0	シリアル/I/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 1 0 1 : UARTモード転送データ長8ビット	R/W
b1	SMD1			R/W
b2	SMD2			R/W
b3	CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック	R/W
b4	STPS	ストップビット長選択ビット	0 : 1ストップビット	R/W
b5	PRY	パリティ奇/偶選択ビット	PRYE=1のとき有効 0 : 奇数パリティ	R/W
b6	PRYE	パリティ許可ビット	0 : パリティ禁止	R/W
b7	—	予約ビット	“0” にしてください	R/W

(8) UART0送受信制御レジスタ0を設定します。

UART0送受信制御レジスタ0 (U0C0)

アドレス 00A4h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	UFORM	CKPOL	NCH	—	TXEPT	—	CLK1	CLK0
設定値	0	0	0	0	—	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CLK0	BRGカウントソース選択ビット(注1)	b1b0 00 : f1 を選択	R/W
b1	CLK1			R/W
b2	—	予約ビット	“0” にしてください	R/W
b4	—	何も配置されていない。書く場合、“0” を書いてください。読んだ場合、その値は“0”。		—
b5	NCH	データ出力選択ビット	0 : TXD0端子はCMOS出力	R/W
b6	CKPOL	CLK極性選択ビット	UARTモードでは“0” にしてください	R/W
b7	UFORM	転送フォーマット選択ビット	0 : LSBファースト	R/W

注1. BRGカウントソースを変更した場合は、U0BRGレジスタを再設定してください。

(9) UART0送受信制御レジスタ1を設定します。

UART0送受信制御レジスタ1 (U0C1)

アドレス 00A5h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	U0RRM	U0IRS	RI	RE	TI	TE
設定値	0	0	0	0	—	0	—	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TE	送信許可ビット	0 : 送信禁止	R/W
b2	RE	受信許可ビット	0 : 受信禁止	R/W
b4	U0IRS	UART0送信割り込み要因選択ビット	0 : 送信バッファ空(TI=1) 1 : 送信完了(TXEPT=1)	R/W
b5	U0RRM	UART0連続受信モード許可ビット(注1)	0 : 連続受信モード禁止	R/W
b6	—	何も配置されていない。書く場合、“0” を書いてください。読んだ場合、その値は“0”。		—
b7	—			

注1. UARTモード時、U0RRMビットは“0”(連続受信モード禁止)にしてください。

(10) UART0ビットレートレジスタを設定します。

UART0ビットレートレジスタ (U0BRG)

アドレス 00A1h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	—	—	—	—
設定値	0	0	0	0	1	0	0	1

ビット	機能	R/W
b7～b0	設定値をnとすると、U0BRGはカウントソースをn+1分周する	W

U0BRGレジスタは、送受信停止中に書いてください。  
U0BRGレジスタは、MOV命令を使用して書いてください。  
U0C0レジスタのCLK0～CLK1ビットを設定した後、U0BRGレジスタに書いてください。

(11) UART0送信割り込み制御レジスタを設定します (割り込み禁止設定)。

UART0送信割り込み制御レジスタ (S0TIC)

アドレス 0051h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	IR	ILVL2	ILVL1	ILVL0
設定値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : レベル0 (割り込み禁止)	R/W
b1	ILVL1			R/W
b2	ILVL2			R/W
b3	IR	割り込み要求ビット	0 : 割り込み要求なし	R/W (注1)
b4	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は不定。		—
b5	—			
b6	—			
b7	—			

注1. IRビットは“0”のみ書けます(“1”を書かないでください)。

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。

(12) UART0受信割り込み制御レジスタを設定します (割り込み禁止設定)。

UART0受信割り込み制御レジスタ (SORIC)

アドレス 0052h番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	—	—	IR	ILVL2	ILVL1	ILVL0
設定値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : レベル0 (割り込み禁止)	R/W
b1	ILVL1			R/W
b2	ILVL2			R/W
b3	IR	割り込み要求ビット	0 : 割り込み要求なし	R/W (注1)
b4	—	何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。読んだ場合、その値は不定。		—
b5	—			
b6	—			
b7	—			

注1. IRビットは“0”のみ書けます(“1”を書かないでください)。

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。

### 4.2.2 送信設定

(1) U0C1 レジスタの TE ビットを “1” に設定します。

UART0 送受信制御レジスタ 1 (U0C1)

アドレス 00A5h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	U0RRM	U0IRS	RI	RE	TI	TE
設定値	—	—	—	—	—	—	—	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TE	送信許可ビット	1 : 送信許可	R/W

(2) U0C1 レジスタの TI ビットが “1” であることを確認します。

(3) U0TB レジスタに送信データを書きます。



### 4.2.3 受信設定

(1) U0C1 レジスタの RE ビットを “1” に設定します。

UART0 送受信制御レジスタ 1 (U0C1)

アドレス 00A5h 番地

ビット	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
シンボル	—	—	U0RRM	U0IRS	RI	RE	TI	TE
設定値	—	—	—	—	—	1	—	—

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2	RE	受信許可ビット	1 : 受信許可	R/W

(2) U0C1 レジスタの RI ビットが “1” であることを確認します。

(3) U0RB レジスタを読み出します。

## 5. 関数表とフローチャート

### 5.1 関数表

宣言	void mcu_init(void)		
概要	システムクロック設定処理		
引数	引数名	意味	
	なし	—	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	なし	—	
戻り値	型	値	意味
	なし	—	—
機能説明	システムクロック（高速オンチップオシレータ 36.864MHz）の設定を行います。		

宣言	void uart_init(void)		
概要	UART 関連 SFR 初期設定処理		
引数	引数名	意味	
	なし	—	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	なし	—	
戻り値	型	値	意味
	なし	—	—
機能説明	UART 関連 SFR の初期設定を行います。		

宣言	void pc_communication(void)		
概要	PC 通信処理		
引数	引数名	意味	
	なし	—	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	unsigned char mode	参照	
戻り値	型	値	意味
	なし	—	—
機能説明	PC ターミナルとの通信を制御します。		

宣言	void input_left_part(void)		
概要	左辺入力処理		
引数	引数名	意味	
	なし	—	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	unsigned char rcv_buf	参照／設定	
	unsigned char digit_num	参照／設定	
	unsigned short left_part_num	設定	
	unsigned short calc_data	参照	
	unsigned char mode	設定	
戻り値	型	値	意味
	なし	—	—
機能説明	計算式の左辺のデータを保持します。		

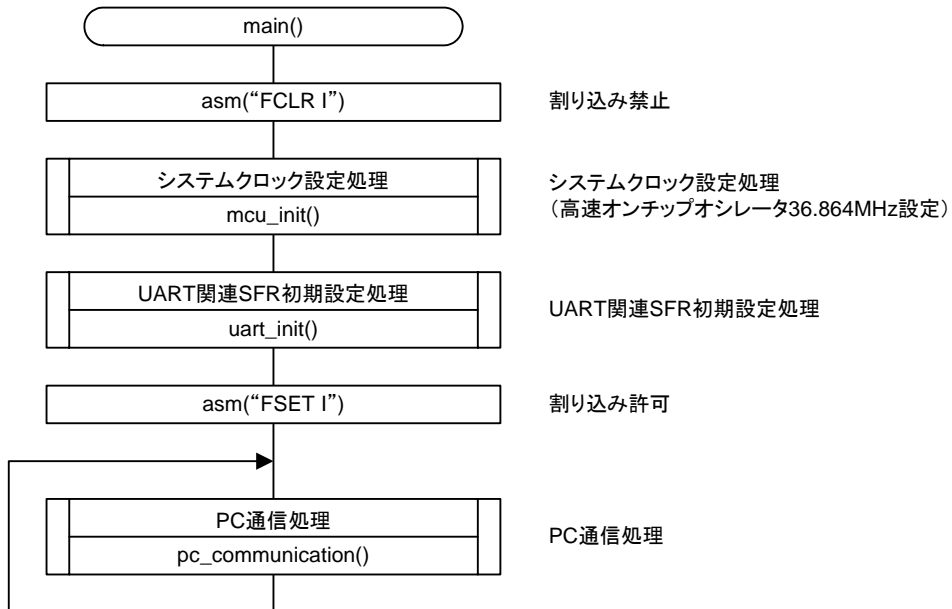
宣言	void input_right_part(void)		
概要	右辺入力処理		
引数	引数名	意味	
	なし	—	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	unsigned char rcv_buf	参照／設定	
	unsigned char digit_num	参照／設定	
	unsigned short right_part_num	設定	
	unsigned short calc_data	参照	
	unsigned char mode	設定	
戻り値	型	値	意味
	なし	—	—
機能説明	計算式の右辺のデータを保持します。		

宣言	void input_data_calc_echo(void)		
概要	入力データ計算、エコー処理		
引数	引数名	意味	
	なし	-	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	unsigned char rcv_buf	参照/設定	
	unsigned char digit_num	参照/設定	
	unsigned char digit_1st	参照/設定	
	unsigned char digit_2nd	参照/設定	
	unsigned char digit_3rd	参照/設定	
	unsigned short calc_data	設定	
戻り値	型	値	意味
	なし	-	-
機能説明	PC ターミナルソフトウェアから受信したデータが適切なデータであるかどうかを確認します。受信したデータが適切なデータであれば本データを保持し PC ターミナルソフトウェアにエコー送信します。		

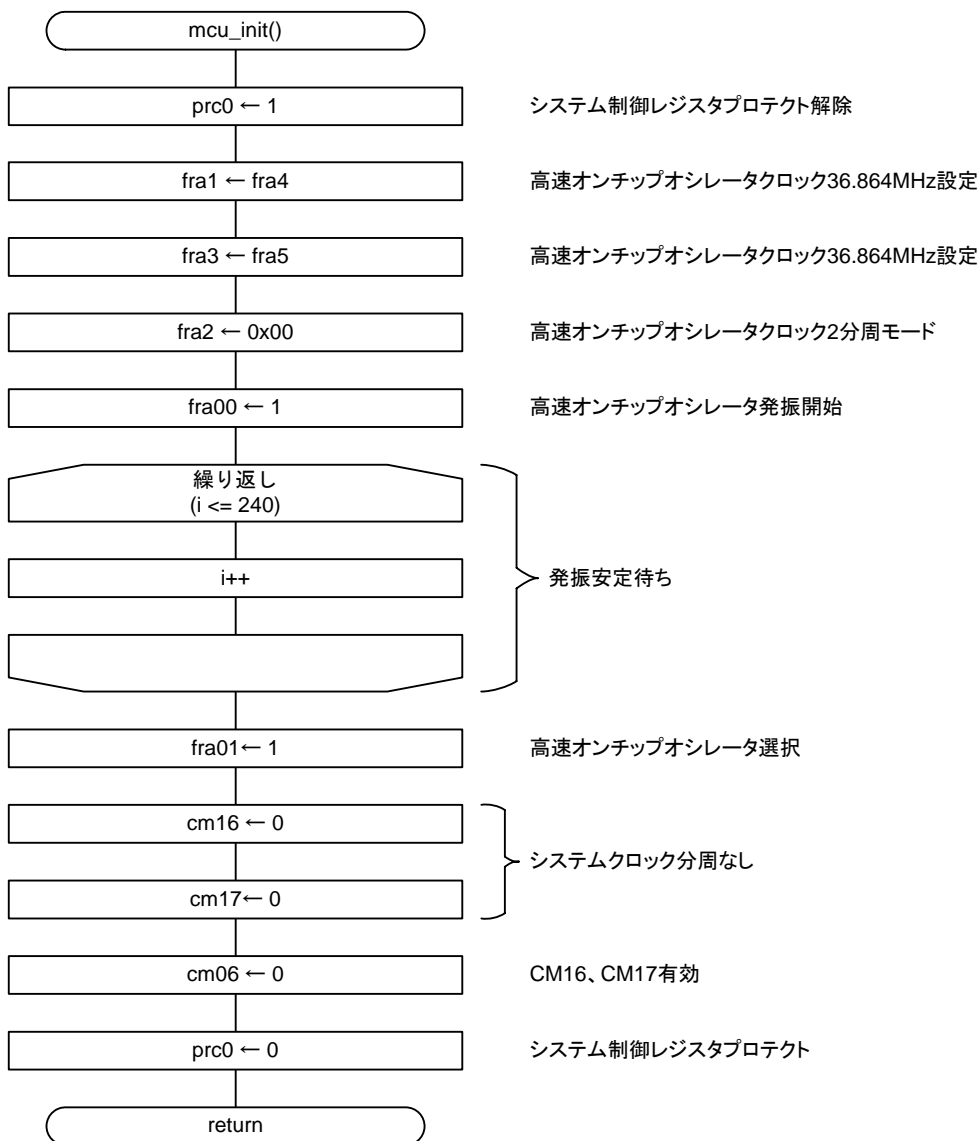
宣言	void calculation_and_transmit(void)		
概要	データ計算送信処理		
引数	引数名	意味	
	なし	-	
使用変数 (グローバル)	変数名	使用内容	
	unsigned char digit_1st	参照/設定	
	unsigned char digit_2nd	参照/設定	
	unsigned char digit_3rd	参照/設定	
	unsigned char digit_4th	参照/設定	
	unsigned short left_part_num	参照	
	unsigned short right_part_num	参照	
	unsigned short sum	参照/設定	
unsigned char mode	設定		
戻り値	型	値	意味
	なし	-	-
機能説明	保持したデータを計算し計算結果データを PC ターミナルソフトウェアに送信します。		

5.2 フローチャート

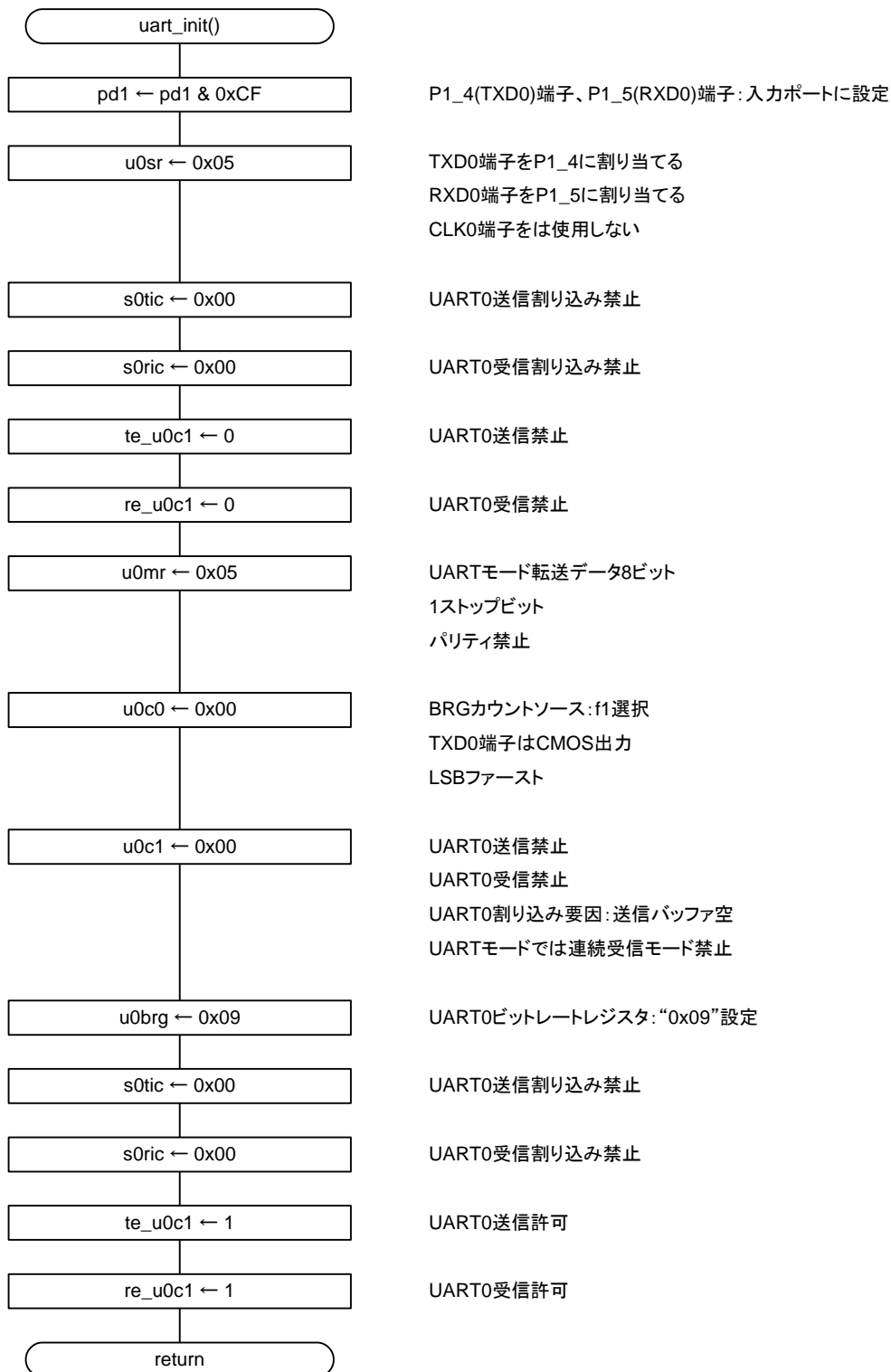
5.2.1 メイン関数



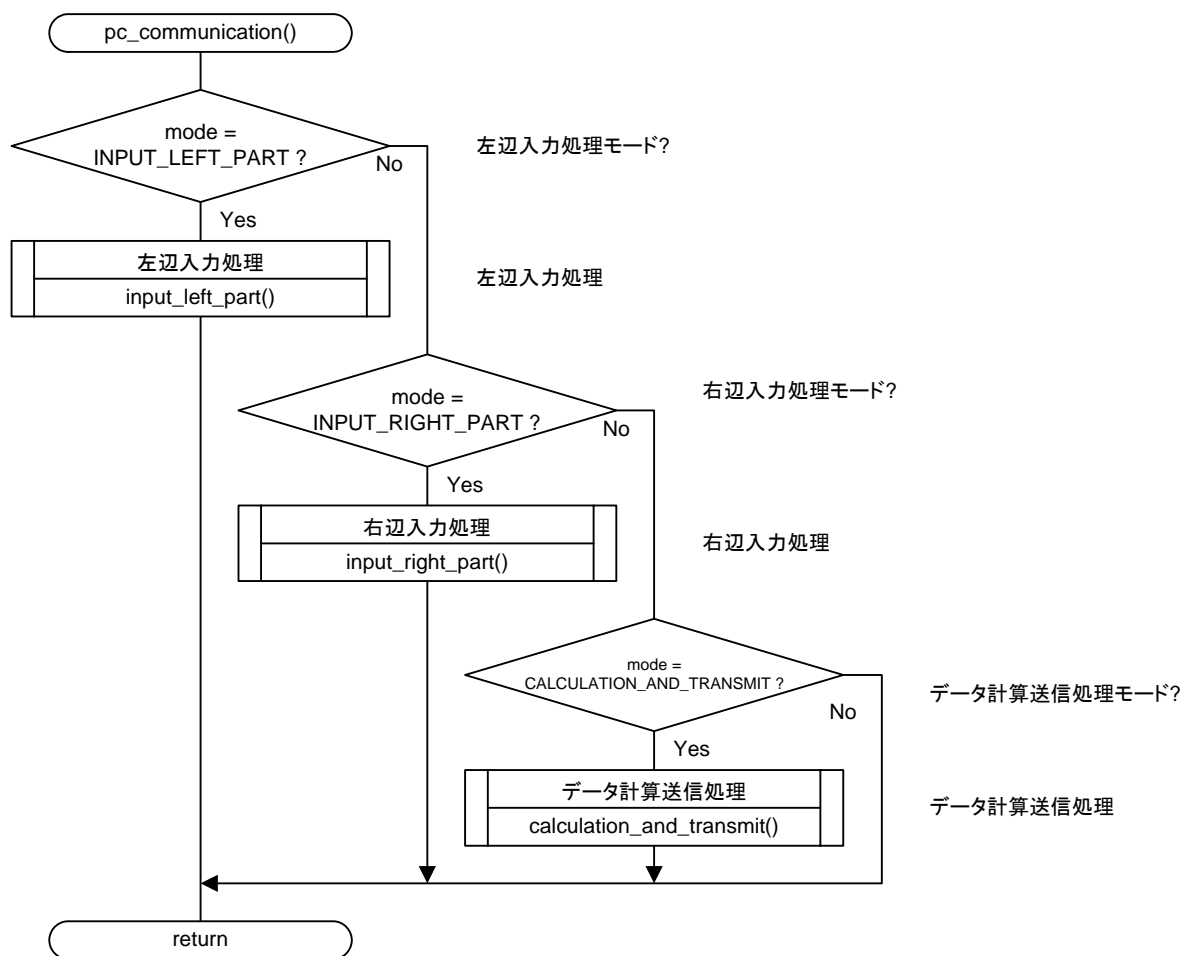
5.2.2 システムクロック設定処理



5.2.3 UART 関連 SFR 初期設定処理

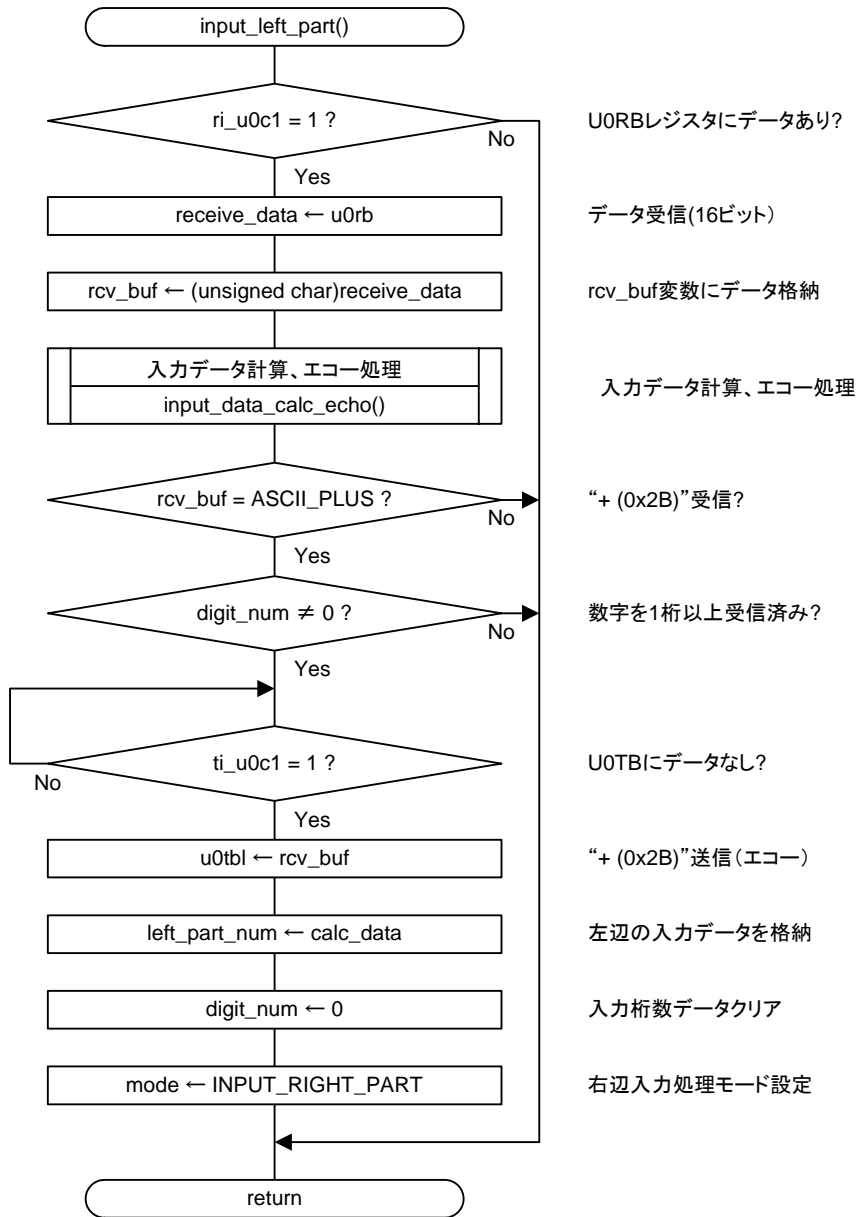


5.2.4 PC通信処理

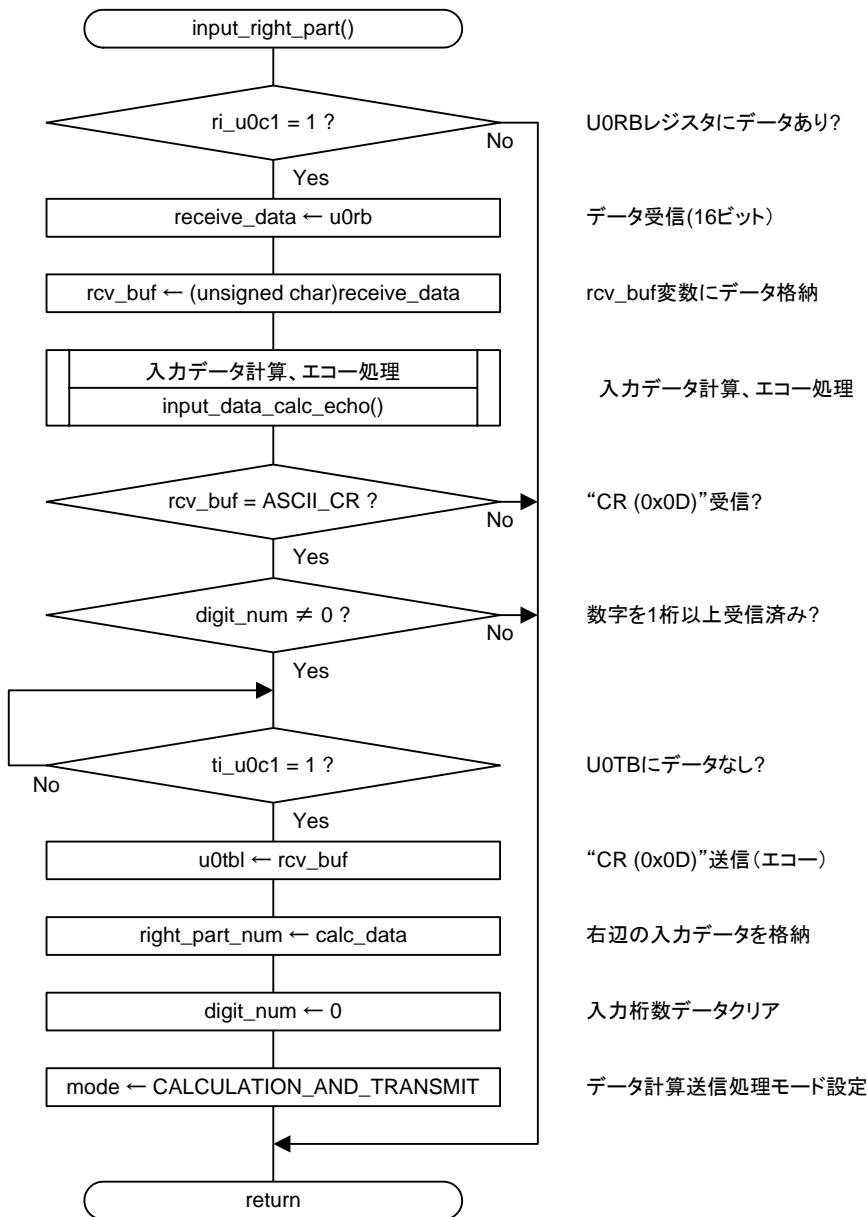




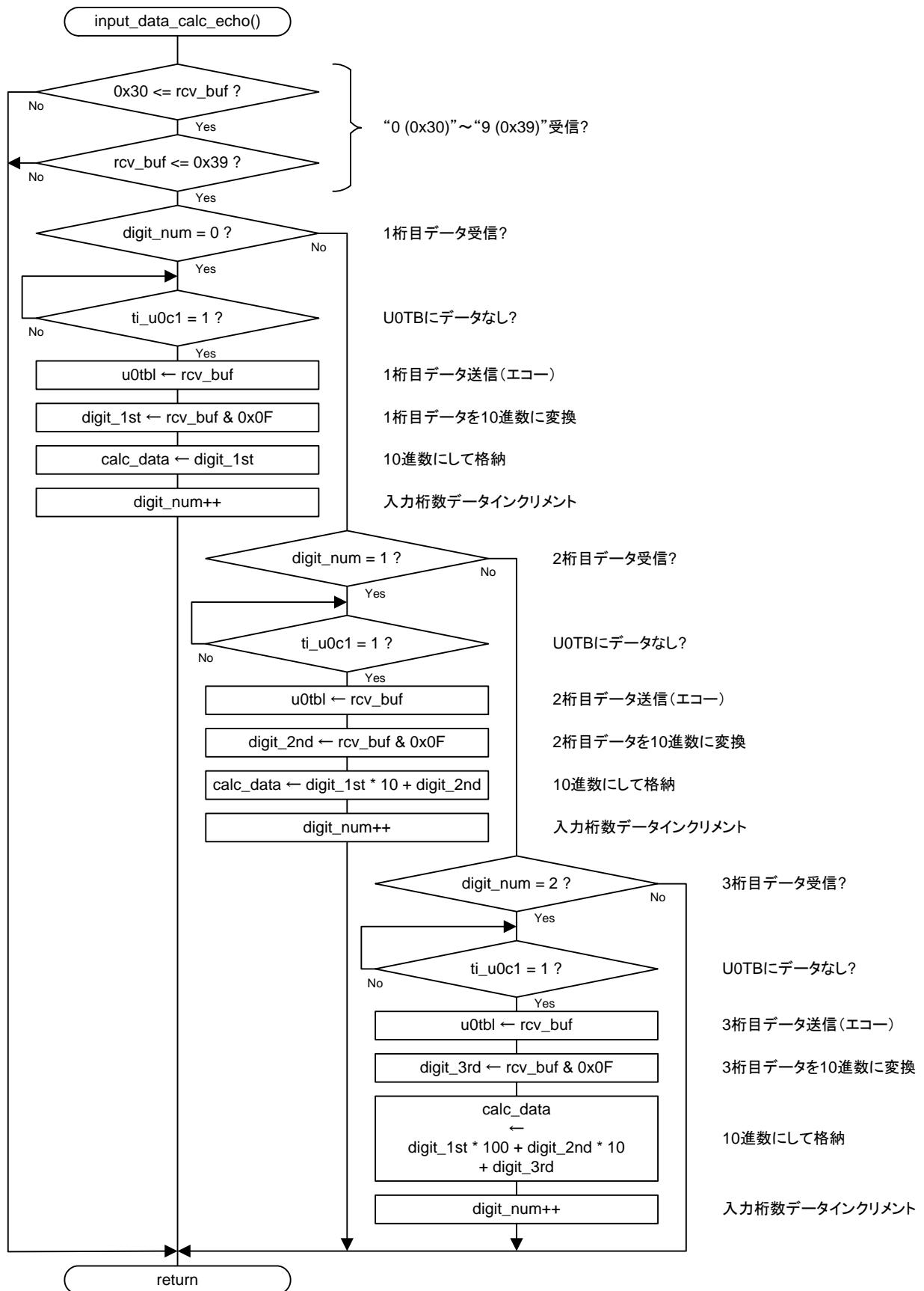
5.2.5 左辺入力処理



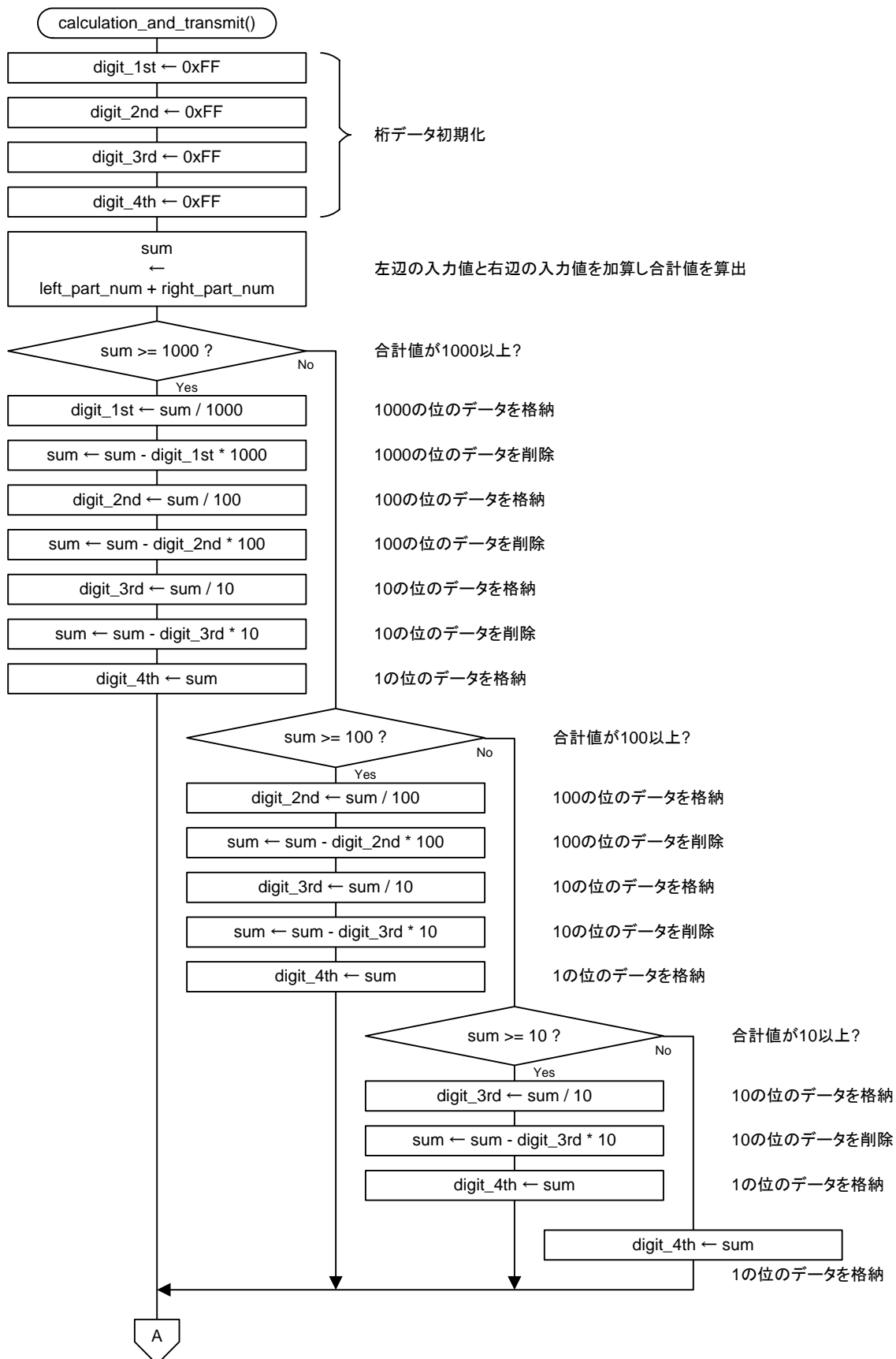
5.2.6 右辺入力処理

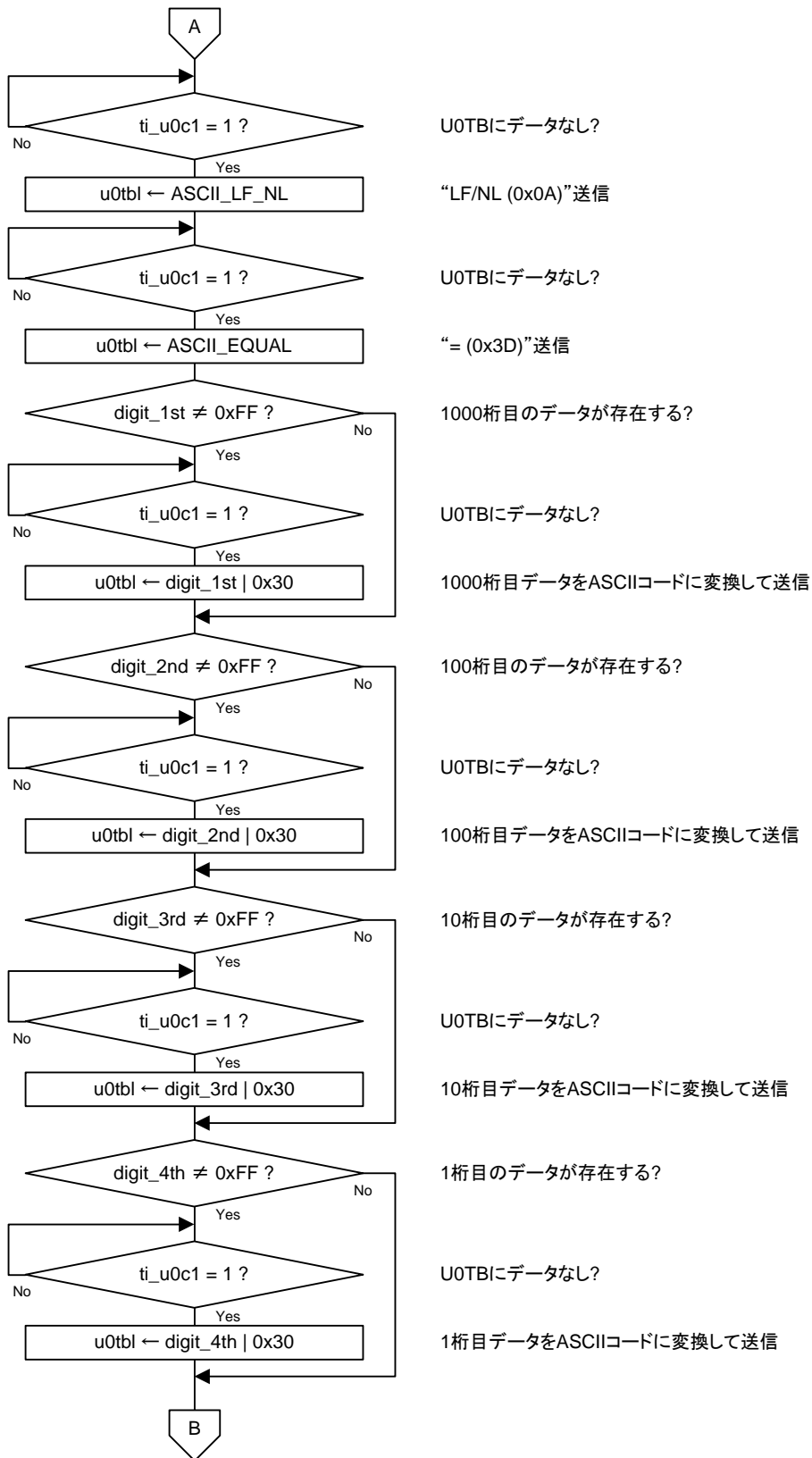


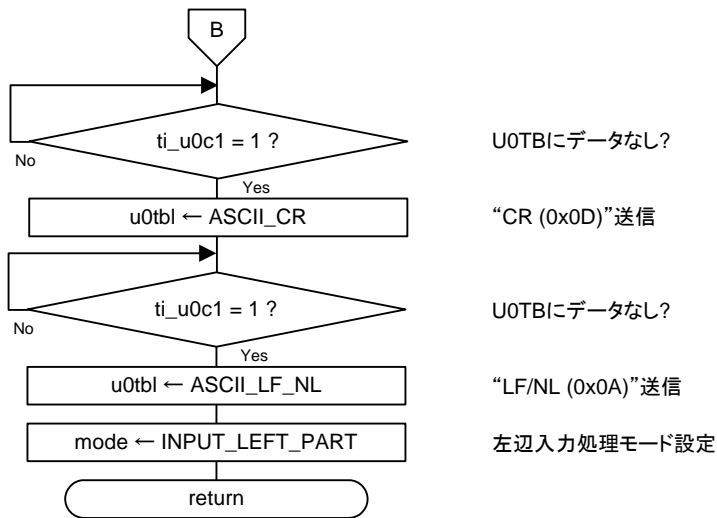
5.2.7 入力データ計算、エコー処理



5.2.8 データ計算送信処理







## 6. 参考プログラム例

参考プログラムは、ルネサステクノロジホームページから入手してください。  
R8C/Tiny シリーズのトップページの画面左メニュー「アプリケーションノート」をクリックしてください。

## 7. 参考ドキュメント

ハードウェアマニュアル

R8C/35C グループハードウェアマニュアル Rev.0.10

(最新版をルネサステクノロジホームページから入手してください。)

テクニカルニュース/テクニカルアップデート

(最新の情報をルネサステクノロジホームページから入手してください。)

## ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジホームページ  
<http://japan.renesas.com/>

お問合せ先  
<http://japan.renesas.com/inquiry>  
[csc@renesas.com](mailto:csc@renesas.com)

改訂記録	R8C/35C グループ PCターミナルソフトとUART通信（高速 OCO 36.864MHz使用）
------	--

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2009.10.23	-	初版発行

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。



## 本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様に用途に応じた適切な弊社製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報について弊社または第三者の知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾または保証するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例など全ての情報の使用に起因する損害、第三者の知的財産権その他の権利に対する侵害に関し、弊社は責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替および外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
4. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの全ての情報は本資料発行時点のものであり、弊社は本資料に記載した製品または仕様等を予告なしに変更することがあります。弊社の半導体製品のご購入およびご使用に当たりましては、事前に弊社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、弊社ホームページ(<http://www.renesas.com>)などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
5. 本資料に記載した情報は、正確を期すため慎重に制作したものです。万一本資料の記述の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、弊社はその責任を負いません。
6. 本資料に記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を流用する場合は、流用する情報を単独で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。弊社は、適用可否に対する責任を負いません。
7. 本資料に記載された製品は、各種安全装置や運輸・交通用、医療用、燃焼制御用、航空宇宙用、原子力、海中継用の機器・システムなど、その故障や誤動作が直接人命を脅かしあるいは人体に危害を及ぼすおそれのあるような機器・システムや特に高度な品質・信頼性が要求される機器・システムでの使用を意図して設計、製造されたものではありません（弊社が自動車用と指定する製品を自動車に使用する場合を除きます）。これらの用途に利用されることをご検討の際には、必ず事前に弊社営業窓口へご照会ください。なお、上記用途に使用されたことにより発生した損害等について弊社はその責任を負いかねますのでご了承願います。
8. 第7項にかかわらず、本資料に記載された製品は、下記の用途には使用しないでください。これらの用途に使用されたことにより発生した損害等につきましては、弊社は一切の責任を負いません。
  - 1) 生命維持装置。
  - 2) 人体に埋め込み使用するもの。
  - 3) 治療行為（患部切り出し、薬剤投与等）を行うもの。
  - 4) その他、直接人命に影響を与えるもの。
9. 本資料に記載された製品のご使用につき、特に最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件およびその他諸条件につきましては、弊社保証範囲内でご使用ください。弊社保証値を越えて製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
10. 弊社は製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、特に半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。弊社製品の故障または誤動作が生じた場合も人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないよう、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計（含むハードウェアおよびソフトウェア）およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特にマイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
  11. 本資料に記載の製品は、これを搭載した製品から剥がれた場合、幼児が口に入れて誤飲する等の事故の危険性があります。お客様の製品への実装後に容易に本製品が剥がれることがなきよう、お客様の責任において十分な安全設計をお願いします。お客様の製品から剥がれた場合の事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
  12. 本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断りいたします。
  13. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点等がございましたら弊社営業窓口までご照会ください。

D039444